

福田寺だより

発行

飯田山 福田寺

住職 橋本尚信

神奈川県小田原市飯田岡二五七
電話 0465(36)2755

真言宗立教開宗千二百年記念法会

二〇二三年 総本山東寺で修行

福田寺の本山である東寺は、来る二〇二三年に真言宗立教開宗千二百年という記念すべき年を迎えます。

総本山東寺は、794年の平安京の造営と共に国立のお寺として建てられました。823年(弘仁十四年)に弘法大師空海和尚が時の嵯峨天皇より賜りました。

お大師様は修行の道場として高野山を開かれましたが、京の都に東寺を賜ったことにより、東寺を真言密教の根本道場と定め、真言宗の教えを弘められたのです。

お大師様が東寺を賜り真言宗を開かれた823年(弘仁十四年)から

数えて丁度、一千二百年目に当たるのが2023年です。東寺並びにその宗団である東寺真言宗では、この記念すべき年に慶讃大法会を修行することになりました。

既に東寺では数年前より、この慶讃事業の一環として文化財である宝物の修復、建造物の修理、境内の整備等、大仕事が執り行われています。現在はお大師様の住坊であった国宝の御影堂(みえどう)が3年がかりで修復作業が進められています。

お大師様の教えは、奥深く広大であります。一言で言うなれば「即身成仏」の教えであると思えます。

私達一人ひとりがこの身このままで仏であると気づき感じ、仏としていきることです。

また、お大師様の教えを奉ずる東寺真言宗の根本理念は「鎮護国家」「広度衆生」であります。真言密教が煩惱にまみれた中に一筋の光明を見つけ菩提へと昇華していく煩惱即菩提、絶望の淵に立った人生から希望に満ちた人生への転換を得る大欲の肯定、これらお大師様の教えを実践することによって信仰心を培い、信仰に基づいた平穏な人生を全ての人々が送ることを願うものであります。

六年後に迎える真言宗立教開宗千二百年慶讃大法会に向けて、東寺真言宗では、お待ち受け法会として檀信徒大会を全国各地で開いております。

十一月七日には関東神奈川支所として小田原市民会館で修行されました。

二〇二三年には揃って総本山東寺にお参りいたしましょう。

信仰心とは？



宗教とは何かと問うたとき、信仰

心であると答えて良いくらい「宗教」と「信仰」は切っても切れない関係である、というよりも「宗教」即「信仰」といって良いものだと思います。自分にとって宗教心が有るかどうかは信仰心が有るかどうかと置きかえることが出来るでしょう。日本人は宗教心が乏しいとか自分は無宗教者だとか云いますがそれはそのまま信仰心に乏しいといったり信仰心が無いということと言い換えることが出来ます。

では、信仰心とはいったい何なのでしょう？。

それは自分自身が全身全霊で委ねることが出来る「何か」を持っているか否かであると思います。「何か」とは。神であったり仏であったり、あるいは太陽であったり自然であったり様々であります。「聖なるもの」という言い方で言い尽くせるよ

うに思えます。

全身全霊で委ねるといったりすると、大げさでとても自分では持つていないと感じる人が大方かも知れませんが、普段は感じていなくても何か窮地に追い込まれたり、運を天に任すと云った場面に出くわしたとき、自分自身の全てを「何か」に委ねるといった心境になることはあるのではないのでしょうか

普段私たちはさほど切羽詰まった生活をしていないと感じているだけで、実のところ一寸先は何があるか知れない人生をそれぞれが歩んでいるのです

言い換えますと私たちは常に死の崖っぷちに立って人生を歩んでいるのです。このことを常に強く感じるならば瞬時瞬時に「聖なるもの」に身を委ねる心境にならざるを得ないのではないのでしょうか。

しかし常にそのような意識を持つ

て生きることとは、ただ悲観的な生き方に陥ってしまうようにも思います。また信仰心というものが困った時の神頼みにとらえられてしまっています。それでは積極的な生き方からますます遠ざかり一辺倒な他力本願に身を委ねてしまいかねません。

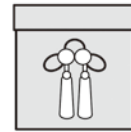
このジレンマに陥らず、死の崖っぷちに立ちながら積極的に生きて行くにはどうしたら良いのでしょうか。自分の意志ではどうにもしようが無い自然の摂理といったようなものから生じる現象は、何かに委ねてしまふことです。その上で自分の意志で出来ることを精一杯生きること、それは自分の生き方に責任を持つことであり自分の生き方に自信を持つことが出来る第一歩ではないでしょうか。

この委ねるところを信心、信仰心といつて良いと思います。

信仰心を持つということは、自分の生き方を何かに委ねることでは無く、逆に自分の生き方に自分自身が責任を持つことであり、悔いの無い人生を送るためのものだと思います。

永代供養・墓終い・散骨・樹木葬

本当の意味は？



タイトルに掲げたような言葉が世の中に氾濫しています。殆どがこれらに関わる業者が自分たちの都合の良いように説明し、誤った解釈がされていることを危惧するものであります。

例えば「永代供養」とは、本来故人の供養を三十三回忌、百回忌と永代に亘って祠祭者（寺院等）にお願いすることでありますが、近年は後々供養しなくて良いものと解釈されています。「永代供養墓」に納めれば後は供養しなくて済むとして流れているのが現状です。

確かに核家族化、少子化が当たり前の社会構造にあって、先祖のあり方墓所のあり方が変化するのは当然のことです。ただ、故人の供養

が形式に流され軽んじられてしまうことを恐れるのです。

一番の要点は、供養してくれる祠祭者（寺院等）があるかないかだと思います。祠祭者は供養の専門家であり、何よりも永代に亘って存在し続けるものであります。

最近はお寺と関わりを持つことを嫌う方もおりますが、その理由は子供に世話をかけさせたくない、というのが多いようです。散骨や樹木葬を希望するのも同じ発想の様です。自分たちのことは自分たちで始末をつけておきたいとの思いです。

確かに、子供の居ない方、娘さんが嫁いでしまった方、子供は居るが遠く離れている方、といった後の面倒を見てくれる人がいないことが普

通の社会になってしまいました。だからといってお寺との関係は必要ないんだと結論づけるのはいささか早計ではないでしょうか。

菩提寺を持つことによる一家の安心、平安は家族にとってより大切なことだと想います。

跡継ぎが居ない、その場合の供養はどうしたら良いのか、そのような事も含めて常に相談出来る菩提寺を持つことは、その人に豊かな人生を与えてくれるものと思います。

菩提寺を持つことは檀家として多少の負担はかかりますが安心を得るもののご理解頂けたら有り難く存じます。

訂正

昨年の39号で東寺の仏像を掲載致しましたが名称が違っていました。

×梵天 ↓ ○帝釈天
同じく字の誤り

×師子相承 ↓ ○師資相承

護摩供養会



(申込み受付中)

二月八日午後三時より修業

恒例の新年厄除け護摩を二月八日の午後三時より修行致します。護摩を焚く修行は近年いろいろな所でされていきますが、正統に受け継がれているのは密教寺院であります。福田寺は、京都・東寺を本山とする真言密教の寺で、創建以来八百八十年の歴史を刻んで参りました。檀家以外の方でも勿論結構ですので、皆様お揃いで新年の護摩供養にお参り下さい。

期日・・・二月八日、午後三時より

祈祷料・・・三千元

祈祷内容・・・厄難消除(厄除け)、
身体健全、病魔退散、家内安全、
交通安全、商売繁盛、業運繁栄、
学業成就、合格祈願、安産祈願、
子授け祈願、その他

申込み・・・一月末日まで、電話可

電話 0465(36) 2755
FAX 0465(37) 6688

平成三十年 厄年

男性(大厄)

前厄 昭和五十三年生まれ

本厄 昭和五十二年生まれ

後厄 昭和五十一年生まれ

(厄) 平成六年、

昭和三十三年生まれ

女性(大厄)

前厄 昭和六十二年生まれ

本厄 昭和六十一年生まれ

後厄 昭和六十年生まれ

(厄) 平成十二年、

昭和五十七年生まれ



仏教相談

誰でも気軽にどうぞ

勿論檀家さん以外の方でも
仏事に関して、
どうしたらよいのか？
どんな些細なことでも
ご相談下さい。勿論無料。

電話0465(36)2755

福田寺

元旦祈願

除夜の鐘とともに、本堂の扉を開けておきます。
午前0時より1時まで、住職により新年のご祈祷が修法されます。ご自由に参加ください。

暮れのお参り

古い護摩札やお守りなどは、暮れのお参りの時に、本堂入り口に用意された納め場所に納めて下さい。特に大きなものや、燃えないものは連絡ください。

年回のお知らせ

来年度の年忌(年回)法要の張り紙を本堂に掲げておきますので暮れのお参りのときに自分の家の年忌を確認して下さい。

年忌に相当している場合、法要の日取りを早めに連絡して下さい。

◆お願い◆

境内で車によるトラブルが発生してきますので「車止め」内は配送車以外進入しないようお願い致します。